自由な働き方をする「ランサー」の調査
―進化する”フリー”ランスの未来―

調査内容のまとめ

- **日本の広義の”フリー”ランス＝「ランサー」は労働人口の19%にあたる1,228万人**
  - 厳密な定義は異なるが、アメリカの調査におけるフリーランスは労働力人口の34%にあたる5,300万人（一方で、経済規模はアメリカの72兆円に対して日本では16兆円）
- **「ランサー」の働き方は副業系、複業系、自由業系、自営業系の4タイプに分けられる**
  - それぞれの規模は、副業系すきまワーカーが593万人、複業系パラレルワーカーが124万人、自由業系フリーワーカーが75万人、自営業系独立オーナーが436万人
- **「ランサー」が”フリー”で働くモチベーションは、自由な生活、お金、自身の興味・関心**
  - 「ランサー」が自由な働き方を続ける上で重要なモチベーションは自由な生活、本業以外の稼ぎ、自分の興味・関心であり、特に自由な生活は日本において比重が高い
- **「ランサー」としての新しい働き方は、今後さらに進化し、広がっていくことが予想される**
  - オンラインでフリーランスの仕事を見つけて受注したことがあるワーカーは、アメリカの42%に対して日本では12%とまだ少ない
  - ワーカーの69%は”フリー”ランスがさらに広がると予想しており、また特定の勤務先を持つワーカーの76%が「副業をしてみたい」、24%が「完全に独立して仕事をしようと考えたことがある」
  - ワークライフバランス、働く場所、働く時間、働く意義などに関して、新しい「自由な働き方」の考え方をするワーカーが、特に女性において多く出てきている

今回の調査概要

Lancers

アメリカで2014年9月に実施された”Freelancing in America”の調査内容を比較対象として参照しながら、3,094サンプルの回答者に対して調査を実施

アメリカの調査（”Freelancing in America”）	今回の調査
調査時期： • 2014年7月19日-7月31日	調査時期： • 2015年3月12日-19日
調査対象： • 過去12か月に仕事の対価として報酬を得た米国の成人男女	調査対象： • 過去12か月に仕事の対価として報酬を得た全国の20-69歳男女
調査方法： • 独立調査会社エデルマン・バーランドによるオンライン調査	調査実施会社： • 株式会社マクロミルによるオンライン調査
有効回答数・質問数 • 5,052人（うち、フリーランス1,720人）	有効回答数・質問数 • 3,094人（うち、フリーランス1,548人）

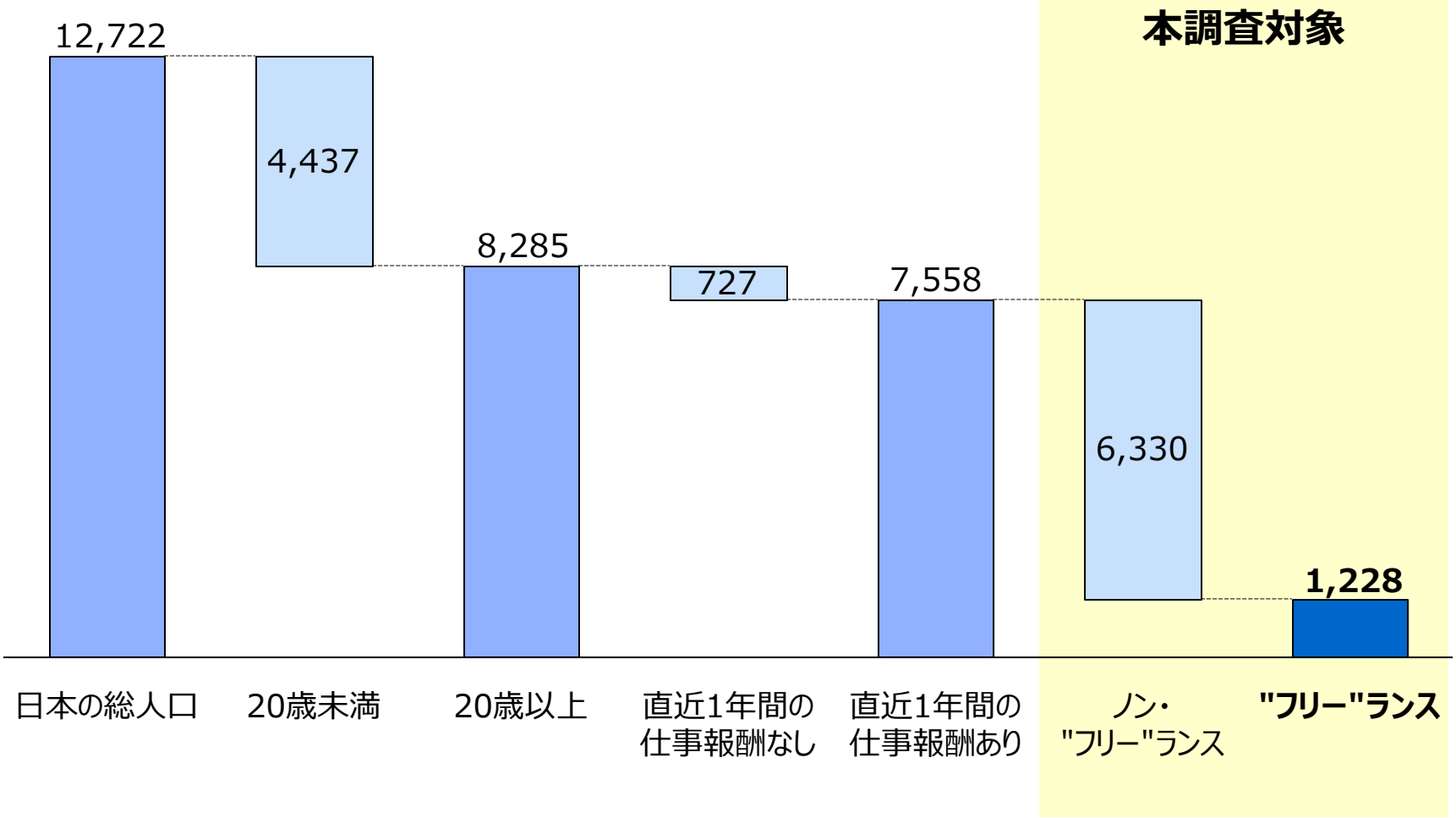
* 本調査の設計においては、一般社団法人テレワーク協会、東北芸術工科大学企画構想学科松村茂教授などのご協力、株式会社インテリジェンスHITO総合研究所のご助言をいただいております

今回の調査対象

Lancers

対象を広くとらえた広義の”フリー”ランスは、1,228万人に達する

調査結果から想定される”フリー”ランスの規模（単位：万人）



＊ 厳密には、インターネット調査を実施しているため、20歳以上でインターネットを利用していない”フリー”ランスは除外されている

“フリー”ランスの規模とタイプ

広義の”フリー”ランス：「ランサー」の4タイプ

Lancers

対象を広くとらえた広義の”フリー”ランスは、副業系すきまワーカー、複業系パラレルワーカー、自由業系フリーワーカー、自営業系独立オーナーの4タイプに分かれる

副業系 すきまワーカー

- サイズ：調査対象の7.8%（593万人）
- 定義：常時雇用されているが副業としてフリーランスの仕事をこなすワーカー
- イメージ例：本業以外のやりがいや生活費の補助を目的に、週の数時間を副業にあてる若年層

複業系 パラレルワーカー

- サイズ：調査対象の1.6%（124万人）
- 定義：雇用形態に関係なく2社以上の企業と契約ベースで仕事をこなすワーカー
- イメージ例：自分のスキルや特技をいかしてフレキシブルなライフスタイルを実践するワーカー

自由業系 フリーワーカー

- サイズ：調査対象の1.0%（75万人）
- 定義：特定の勤務先はないが独立したプロフェッショナル
- イメージ例：組織に勤めていたが、定年前の退職や出産を機に自らやりたいことをやるために独立を決めたワーカー

自営業系 独立オーナー

- サイズ：調査対象の5.8%（436万人）
- 定義：個人事業主・法人経営者で、1人で経営をしている
- イメージ例：スキルや資格、顧客資産などを糧に長く自活している独立したプロフェッショナル

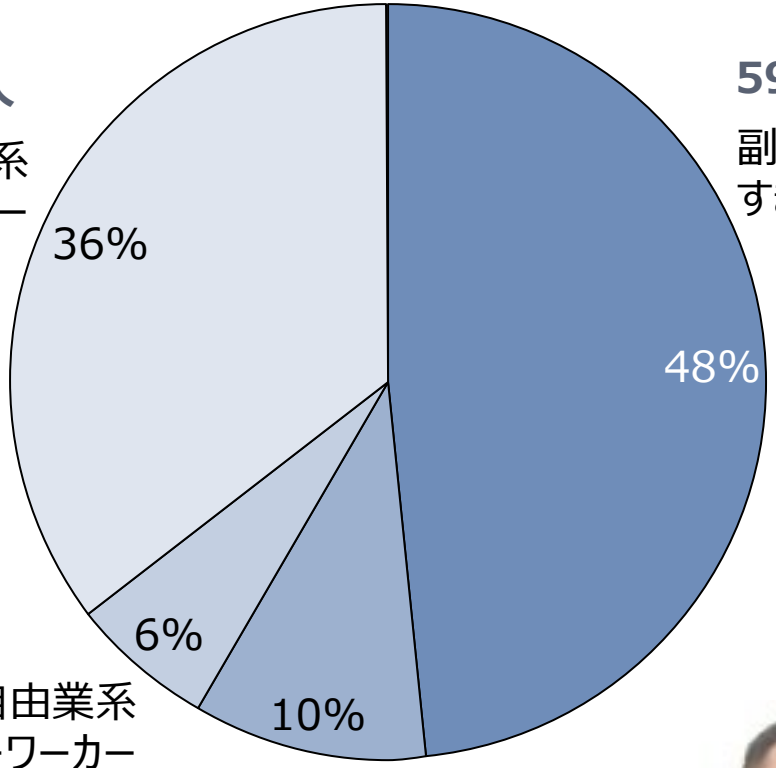
広義の”フリー”ランス：「ランサー」の4タイプ

Lancers

副業系すきまワーカーが約半数となる593万人。次いで、自営業系独立オーナーが36%の436万人となり、両者で約8割を占める

436万人

自営業系
独立オーナー



593万人

副業系
すきまワーカー

自由業系
フリーワーカー

75万人

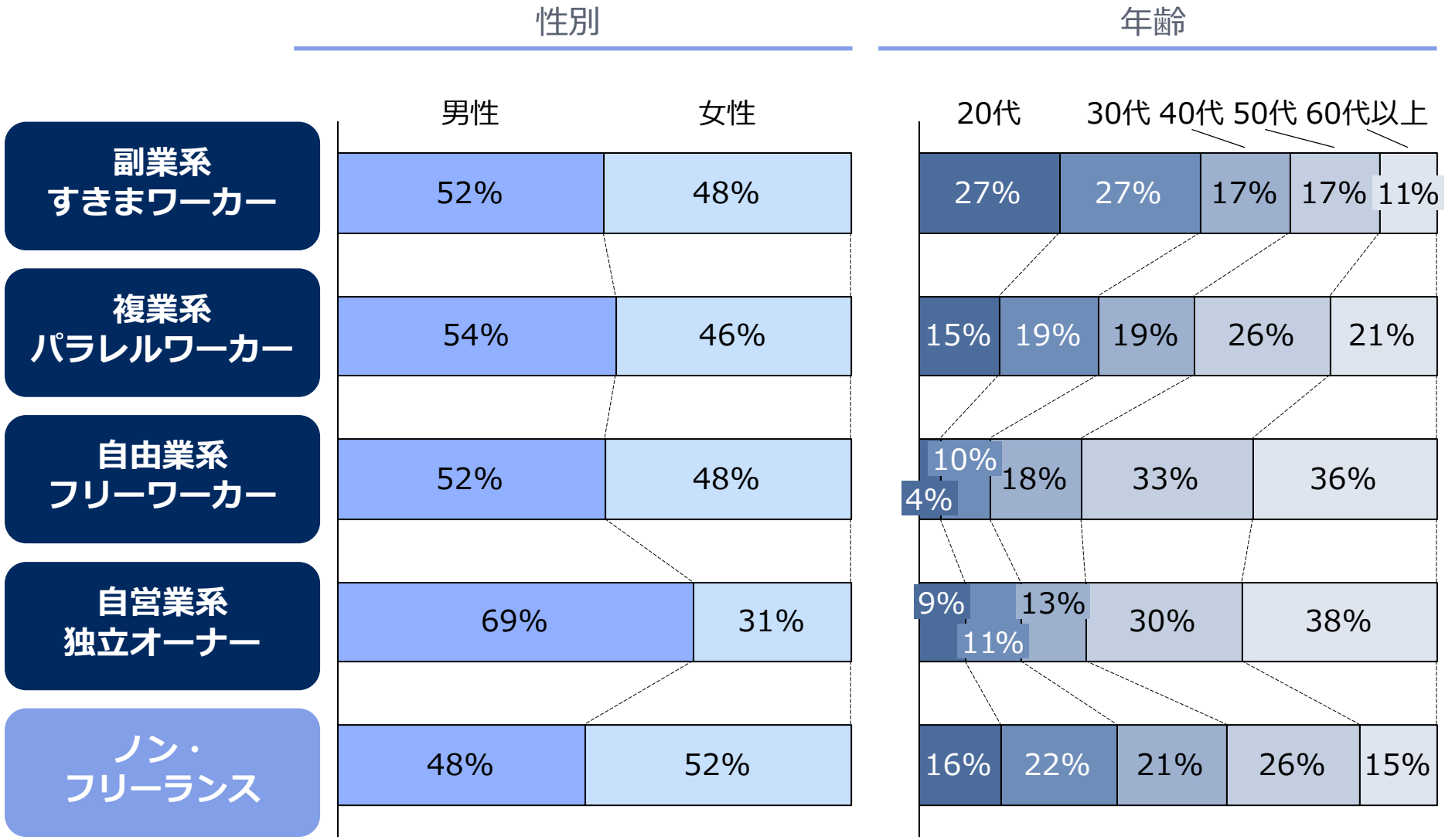
複業系
パラレルワーカー

124万人

広義の"フリー"ランス：「ランサー」の4タイプ

Lancers

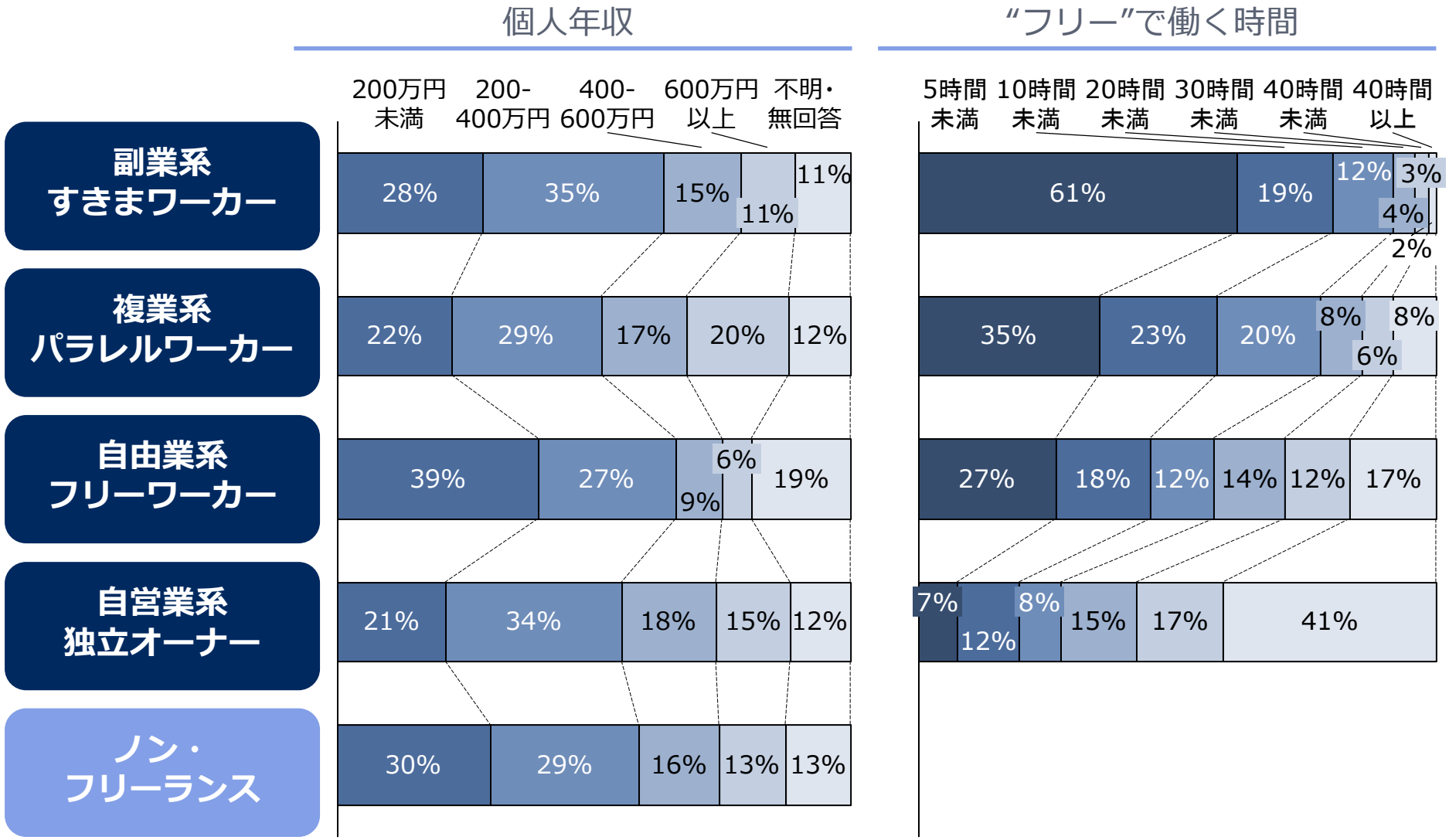
自営業系は男性が中心。副業系は若年層が多いのに対して、自由業系・自営業系は高齢層が中心である一方、複業系は平均的なデモグラフィー



広義の"フリー"ランス：「ランサー」の4タイプ

Lancers

個人年収では、複業系と自営業系が平均的ワーカーより多くなっている。"フリー"で働く時間については、副業系、複業系、自由業系、自営業系、の順に多くなる



Lancers

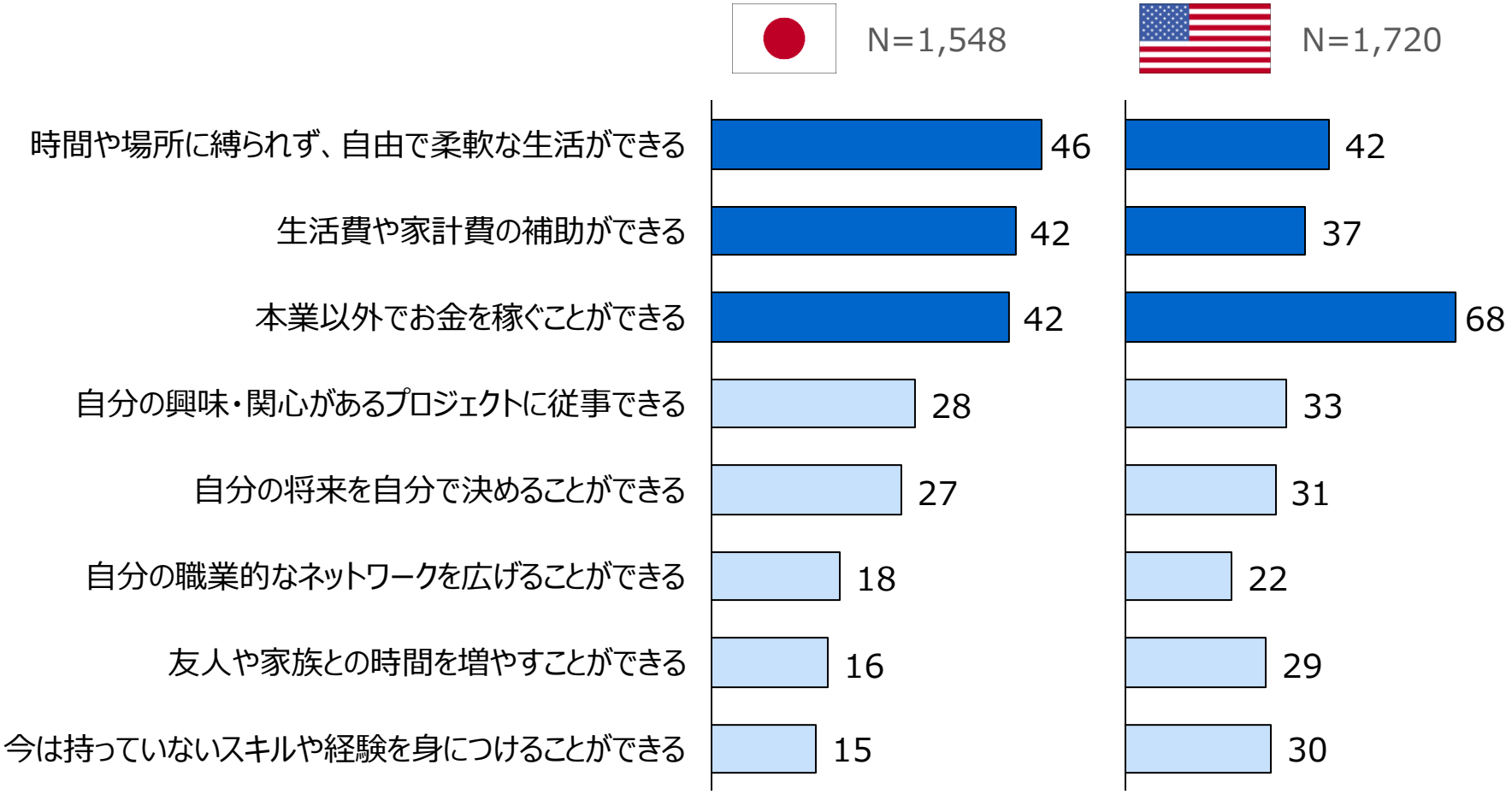
“フリー”ランスの実態

“フリー”ランスの実態：自由な働き方のモチベーション

Lancers

“フリー”ランスが働く上での主要なモチベーションは「自由な生活」「本業以外の稼ぎ」「自分の興味・関心」だが、日本では「自由な生活」の比重がより高い

「自由な働き方」のモチベーション*（複数回答）



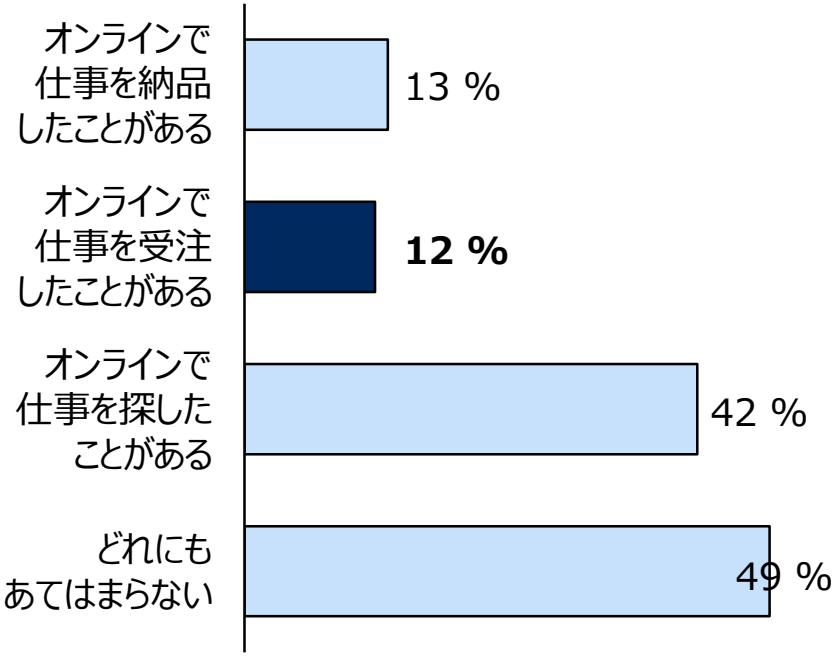
*質問内容は、「あなたが「自由な働き方」（※）を続けていくうえでのモチベーションは何ですか？」　（※ここでいう「自由な働き方」とは、一般的な企業からの雇用形態とは異なる、組織から独立したフリーランスとしての仕事や、副業、2社目の仕事、個人・法人経営などをすべて指します）

“フリー”ランスの実態：インターネットの利用

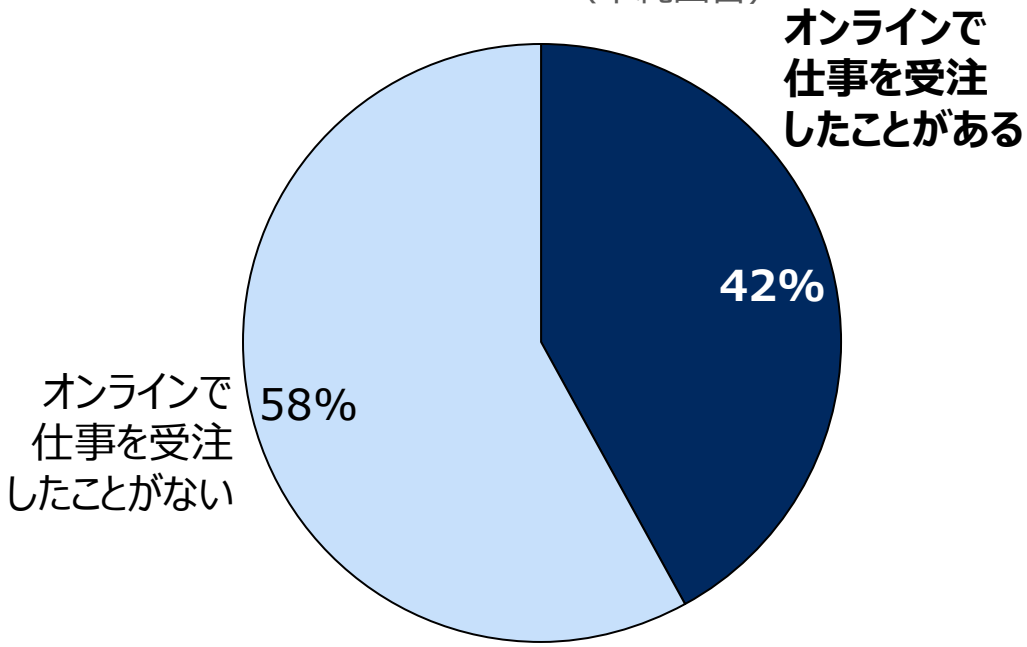
クラウドソーシングなどの仕組みを活用して“フリー”ランスとしてオンラインで仕事を見つけ受注したことのあるワーカーの割合は、アメリカの42%に対して日本は12%

オンラインでフリーランスの仕事を見つけ、受注し、納品したことのある人の割合

N=1,548
（複数回答）



N=1,720
（単純回答）



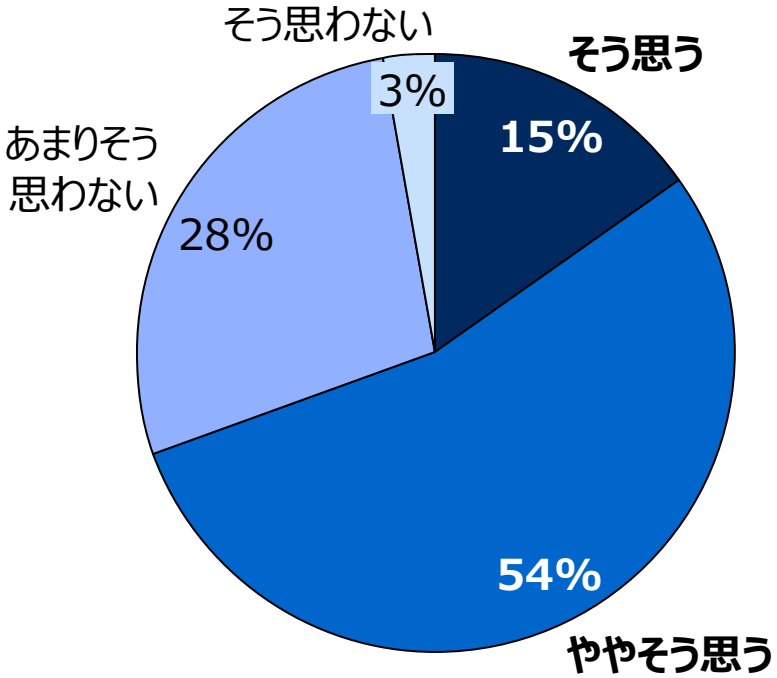
働き方の未来：今後の働き方の広がりの可能性①

Lancers

ワーカーの69%は「ランサー」として自由な働き方をする人が今後増えていくと考えている一方、自由な働き方から得られる報酬が増えていくと考えているのは43%

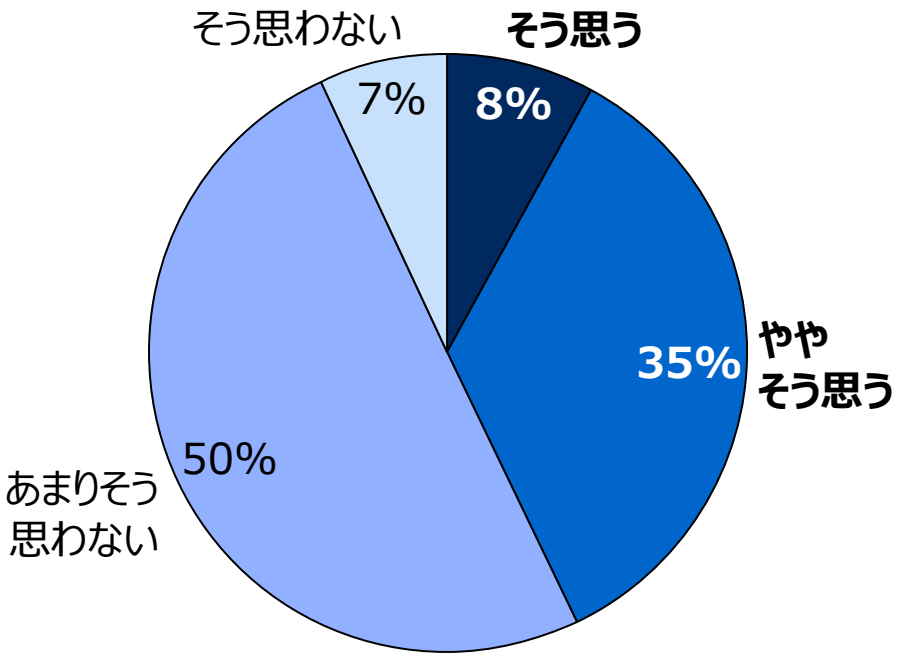
「自由な働き方」をする人は、
今後3年間で増えていくと思いますか？

N=3,094*



「自由な働き方」から得られる報酬は、
今後3年間で増えていくと思いますか？

N=3,094*



* 回答の対象者は、過去12か月の間に仕事の対価として何らかの報酬を得たことのある「ワーカー」

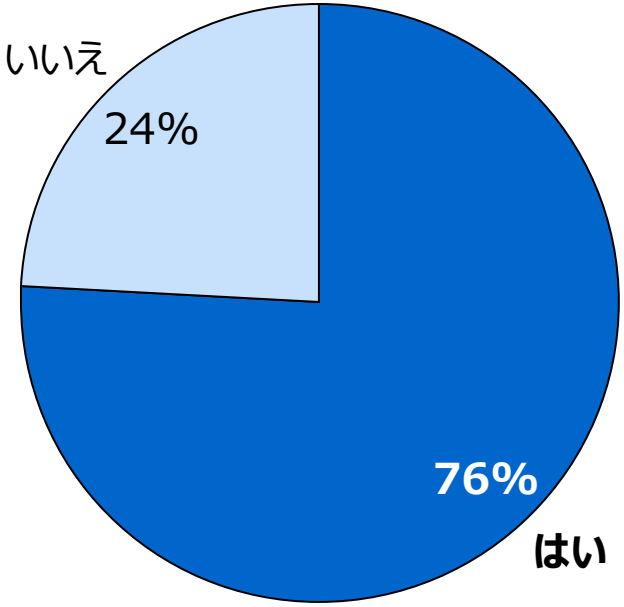
働き方の未来：今後の働き方の広がりの可能性②

Lancers

（雇用されているが副業をしていない）通常のワーカーのうち、76%は副業をしてみたいと考えており、またワーカーの24%は独立して仕事をしようと考えたことがある

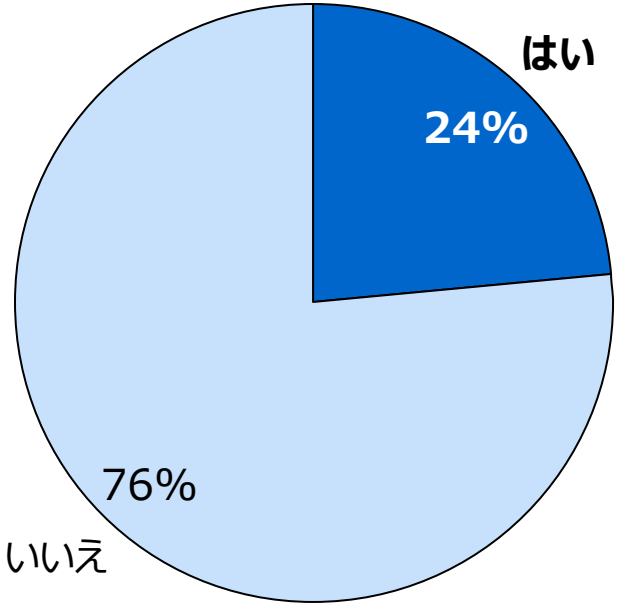
勤務先の本業以外で稼げる仕事があるとした場合、副業をしてみたいと思いますか？

N=1,431*



これまでに、本業をやめて、完全に独立して仕事をしようと考えたことはありますか？

N=2,129**



* 回答の対象者は、過去12か月の間に仕事の対価として何らかの報酬を得たことのある「ワーカー」のうち、特定の勤務先（企業・組織）があり、かつ副業をしていないワーカー

**回答の対象者は、過去12か月の間に仕事の対価として何らかの報酬を得たことのある「ワーカー」のうち、特定の勤務先（企業・組織）があるワーカー

働き方の未来：今後の働き方の広がりの可能性③

Lancers

ワークライフバランス、働く場所、働く時間、働く意義などに関して、新しい「自由な働き方」の考え方をするワーカーが、特に女性において多く出てきている

5-10年後、あなたはどんな働き方をされていると思いますか？（n=3,094、自由回答）

「**何種類かの仕事をうまく時間配分を考えてこなしている**予定。東京から地方に移ったので、その分新規事業の伸びしろはあると考えているし、**東京の仕事も地方からインターネットを利用して継続**。働く時間は増えると思う。」（40代女性）

「一生、仕事をしたいので、**もう一つ別の才能にあったことを勉強して、老後もできるような仕事をみつけたい**と思う。自分の趣味やたくさんの人との交流もしていきたい。」（50代女性）

「副業から得られる所得を増やし、**会社に依存しない生き方をしていたい**。現在、妊娠中のため近々退職する予定だか、副収入が安定的にあると生活のため無理に早期復帰することもなく家族といる時間、子供の成長を比較的余裕をもって見守って行けそう。」（30代女性）

「**自分の好きな時間に好きな場所で働いている。**今はネットワーキングや信頼を高めるために一生懸命に誠意のある仕事をしているので、5年後にはそれが身を結んで、利益のことばかりだけではなく、困っている人のためになるような仕事をしているようになっている。」（30代女性）

「**不安定で一人で大変だけど、今のようにフリーで働いていると思う**。育児をおろそかにしたくないので、自分が両方とも充実させるためには自分でマネジメントできるこの働き方がいいと思う。」（40代女性）